

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

東久留米市立南町小学校 第5学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)	次年度に向けた 自己評価 (A・B・C)
国語	<ul style="list-style-type: none">文章を読んで内容を正確に読み取ることができない児童が3割程度いる。既習の漢字が身に付いていない児童が3割程度いる。	<ul style="list-style-type: none">授業で音読の時間を確保したり、家庭学習で音読の課題を毎日出したりすることで、文章を読む機会を増やす。国語タイムや家庭学習を活用し、繰り返し漢字の練習をする。定期的に漢字の小テストを行い、知識が定着しているかの確認を行う。漢字50問テストで平均8割の習得率を目指す。	
算数	<ul style="list-style-type: none">ワークテストの思考・判断・表現において学年の平均が70点程度であり、文章題の内容や式の意味を正しく理解できていない児童が40%いる。除数が2桁、3桁の計算につまずきのある児童が45%おり、小数の除法が正しくできない。	<ul style="list-style-type: none">文章で問われていることは何か、分かっていることは何かを確かめる習慣を付けさせ、数直線や表を使って数量の関係を捉えられるように反復練習し、平均を80点以上にする。算数タイムや宿題で除数の問題に繰り返し取り組みさせ、7割の児童が正確に計算できるようにする。	
体育	<ul style="list-style-type: none">前年度までに身に付けていることが期待される技能が身に付いておらず、特に器械運動では顕著に表れている。(鉄棒で逆上がりができる児童は3割程度など)	<ul style="list-style-type: none">単元のはじめに、前年度までの運動の確認をする時間をとる。掲示資料やワークシート等で技能のポイントを理解できるようにする。	
道徳	<ul style="list-style-type: none">内容項目について自分のこととして捉えられず、自分の考えをもつことができない児童(ワークシートに書けない児童)が、3割程度いる。	<ul style="list-style-type: none">資料の提示の仕方や発問を工夫し、内容項目を自分のこととして捉えられるようにする。小集団での話し合いを設定し、友達の考えからヒントを得たり自分の考えを確かめたりできるようにする。	